

F T 8 Part II (WVR の FT8 生活)

7L2WVR 久保木尊史

F T 8を始めてから3年が過ぎた。

今では当局のメインモードになっている。F T 8の何が良いのかと問われると、何といてもDXが身近になったことだ。CWやPhoneが何も聞こえない時でも、F T 8なら世界中の、どこかの国の信号が入ってくる。文字通り「毎日がDX」だ。

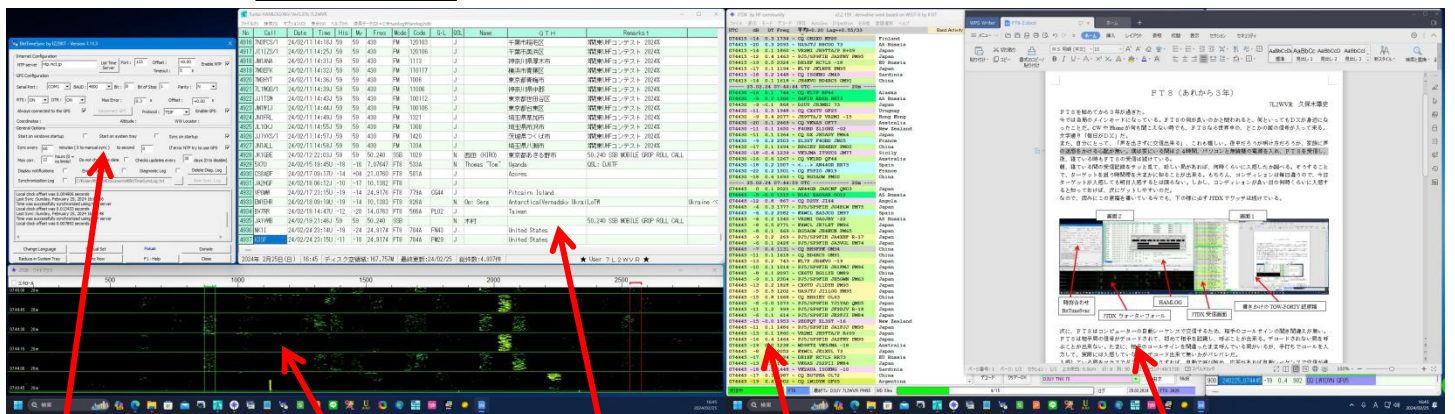
また、自分にとって、「声を出さずに交信出来る」、これも嬉しい。夜中だろうが明け方だろうが、家族に声の迷惑をかける心配が無い。僕は家にいる間は24時間、パソコンと無線機の電源を入れ、F T 8を受信し、夜、寝ている時もF T 8の受信は続けている。

朝、寝ている間の受信記録をサッと見て、珍しい局があれば、何時くらいに入感したか調べる。そうすることで、ターゲットを狙う時間帯を大まかに知ることが出来る。もちろん、コンディションは毎日違うので、今日ターゲットが入感しても明日入感するとは限らない。しかし、コンディションが良い日の何時くらいに入感すると知っておけば、次にゲットしやすいのだ。

なので、因みにこの原稿を書いている今でも、下の様に必ずJTDXでワッチは続けている。

左モニタ

右モニタ



時刻合わせ
BitTimeSync

JTDX ウォーターフォール

HAMLOG

JTDX 受信画面

書きかけの TOW-FORTY 誌原稿

次に、F T 8はコンピューターの自動シーケンスで交信するため、相手のコールサインの聞き間違えが無い。F T 8は相手局の信号がデコードされて、初めて相手を認識し、呼ぶことが出来る。デコードされない局を呼ぶことが出来ない。たまに、相手のコールサインを間違ったまま呼んでいる局がいるが、そういう局は手打ちで相手コールを入力して、実際には入感していないかデコード出来て無いことがバレバレだ。

入感している局をマウスでダブルクリックすれば、自動で呼び始め、応答があれば自動シーケンスで交信が進むため、相手のコールサインを間違えることも、相手がこちらのコールサインを間違えることも無い。

F T 8は自分に代わって交信してくれる。

デコードされた相手をダブルクリックすれば、自動で呼んでくれるので、寝ていても、食事にリビングに行っている、トイレに入っているもOK。

真夜中に交信したい局が入感して、明日は仕事で朝が早いから寝なきゃいけない、そんな時も、自動で呼び続けて応答があれば自動で交信してくれるので、とりあえず呼んで、そのまま明日の仕事のために寝る。

呼び続ける時間は、JTDXの設定で最大1時間半まで可能。自分は1時間に設定している。

だから応答がなくて朝まで延々と何時間も呼び続けるということが無い。
まあ、気になって時々目が覚めるから、ダメな時は早めに送信停止にするけど。

以下の話しは実際にあった話し。

平日の朝、南米スリナムの PZ5RA を呼んでいたが、もう食事をして仕事に行く時間だ。
もっと粘りたいけど仕事に行かなければならない。
そこで、自動でスリナムを呼び続けたまま、自分は朝食を食べにリビングに行った。
食べ終わる頃、友人から「スリナム、おめでとうございます」の LINE。
急いで部屋に戻って見ると、食事をしている間にスリナムから応答があり、交信成立。
友人は自分がスリナムを呼んでいるのをワッチしていたそうだ。
自動シーケンスでなければ、この時スリナムとは交信できなかった。

相手から応答があった時や、交信中、また誰かが自局を呼んできた時など、自分に対しての信号を受信した時は、JDX が Windows のシステムアラームを鳴らして知らせてくれるので、僕は部屋にいる時には常時、パソコンに繋いだイヤホンをしている。音楽を聴くときも YouTube を観る時も、また夜寝る時もイヤホンをして寝るので、真夜中、相手を呼びながら寝落ちした場合でも、応答があった時はイヤホンがアラームを鳴らして起こしてくれる。

下の画像は、F T 8 本気モードの時の画面。

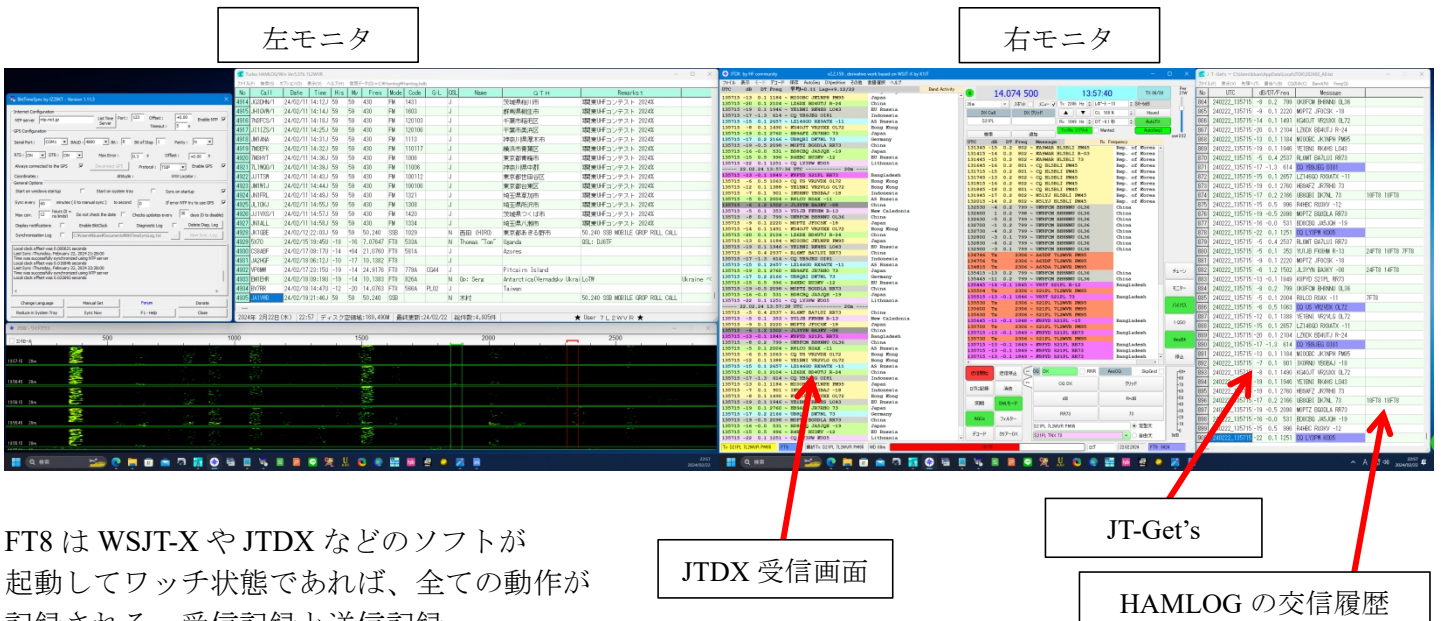
ふたつのモニタ、右のメインモニタは JDX と HAMLOG の機能である JT-Get's。

JT-Get's は HAMLOG の交信データを参照し、デコードした全ての局を、どの周波数の、どのモードで交信したか、または未交信局か、などの区別ををリアルタイムで表示してくれる。

また、交信した際、「RR73」を送信または受信時したら自動で HAMLOG に入力してくれる。

HAMLOG を立ち上げた時、自動で JT-Get's も立ち上がるように設定してあるため、JT-Linker は使わず、JDX と HAMLOG だけで運用が可能。シンプルで、とても便利な機能だ。

左のモニタは、HAMLOG 本体の表示と、JDX のウォーターフォール、それにパソコンの時刻を正確に合わせるための BitTimeSync。(実際は相手が 1.5 秒ズレてたって交信出来る時は交信出来るんだけど)



FT8は WSJT-X や JDX などのソフトが
起動してワッチ状態であれば、全ての動作が
記録される。受信記録と送信記録、
バンドの切りかえなど全てが、テキスト形式のログに記録されるため、
後で交信記録を調べて HAMLOG に追加することも可能だ。

これも実際にあった話し。

以前、アイスランドの TF5B を呼んでいた時、やっとコールバックがあり、RS レポートを送ったが、信号が落ちてしまい尻切れになった。残念だが交信不成立と思い HAMLOG には入力しなかった。



後日、eQSL を覗くと、なんと TF5B から eQSL が届いている。FT8 のログデータを開き、その時の状況を確認し、HAMLOG に TF5B との交信を入力し、LoTW と eQSL、それに Clublog にデータをアップロード。

LoTW と Clublog でもデータがマッチングし、めでたく DXCC のエンティティがひとつ増えた。また QSL カードも交換できた。

TF5B の eQSL

このように、楽しく FT8 生活を送っているが、キビシイことも多い。

当局はベランダ用アンテナなので、沢山の JA の局が呼んでも、こちらには全く入感しない事が多い。やっと入感しても、すぐに落ちてしまい交信出来ずということも。

毎月 CQ 誌に DX レポートを送っているが、レポートの半分以上が「受信のみ」で、交信は半分以下だ。だけど、この小さなアンテナで珍しい所をゲットした時は「やったね！」と親指を立てたい気分だ。

実際、相手から「RR73」の信号が届いた時は、「ヨシ！」とガッツポーズをとることもある。

最近では、南極のベルナツキー基地 (EM1EHR) と交信成立した時、RR73 の画面に向かってガッツポーズ。他人が見たら、スポーツ番組でも観戦しているんだろうと勘違いされるだろうな。

FT8 は文字通信なので、電波伝搬を客観的に見ることが出来、PSK Reporter と相まって、今はヨーロッパとアフリカとの間にパスが開いているとか、今は東方向へ電波は飛ぶが西方向への電波は飛ばないとか、グローバルな目線でアマチュア無線を楽しめる。

今はサイクル 25 の全盛期だが、数年先、極小期で DX 通信が厳しい時がやってくる。

それでも色々な方法や様々な分野でアマチュア無線を楽しみたいと思う。